

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 7月 2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科

職 名・学 年 博士後期課程・3年

氏 名 安齋 寿美玲

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	第30回 国際看護師協会大会ヘルシンキ2025 30th International Council of Nurses Congress 2025 Helsinki		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☐ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他()		
発 表 題 目	Empowering Nurses to Break Barriers: Challenges in Achieving Universal Health Coverage for Refugees and Undocumented Immigrants in Japan		
開 催 場 所	フィンランド・ヘルシンキ		
渡 航 期 間	2025年 6月 6日 〜 2025年 6月 18日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	153,250
		宿泊費	139,049
		滞在費	65,000
		学会参加費	109,318
		その他	
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 採択いただき誠にありがとうございました。円安はかなり厳しく、特に物価の高いフィンランドでは、助成金がないと自費で捻出するのは困難でした。心から御礼申し上げます。しかし、航空運賃、宿泊費、学会参加費の削ることが困難な費用だけで40万円を超え、ペットボトルの水が2.5ユーロ(約430円)、食事も安価なカフェで12ユーロ(約2080円)など、滞在費がかさみました。今後もこのような状況は続く可能性がありますので、それぞれの地域の状況を鑑みた助成金額増額のご検討をお願いしたいです。		

1. 学会について

今回報告者が参加した第30回国際看護師協会大会2025 (30th International Council of Nurses Congress 2025) は、2025年6月9日から13日にかけて、フィンランド共和国の首都ヘルシンキで開催された。国際看護師協会 (ICN) は、130以上の国の看護師協会から成り、国際的な保健医療専門職団体として1899年に世界で初めて創設された最大の組織である。1万件を超える演題登録、7千名を超える現地参加があり、大変な賑わいをみせた。当然ながら参加者のほとんどが看護職であり、それぞれ国や地域の状況は違えども、今回交流した全員が、似たようなトレーニングを受け、看護職として仕事に就いていた。自分が持つ資格がこのような大きなコミュニティを有することに感動するとともに、看護師という仕事の普遍性を感じ、世界のどこでも同じ志を持った仲間が看護の仕事をしていることを誇らしく感じた。

2. 研究発表と参加の成果

Empowering Nurses to Break Barriers: Challenges in Achieving Universal Health Coverage for Refugees and Undocumented Immigrants in Japan というテーマでポスター発表を行った。本研究では、すべての人が安価に医療にアクセスできることを意味する、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの枠組みに難民や移民などの外国籍住民が包含されていないこと、またその対策に関して、日本の難民を対象とした調査をもとに、議論した。意見交換したイギリスの参加者からは、調査対象に男性が含まれていないことについて指摘があり、今後の調査の参考になった。

開催地の地域や時節柄、紛争・平和と看護というテーマでの発表も多く行われていたことが印象的だった。日本国内の学会ではほとんど見かけないようなテーマも多く、世界的な看護研究のトピックや潮流を知ることができ、有意義だった。

さらに、本大会開催前に行われたICN学生部会 (Student Assembly) に参加できたことも大変貴重な機会だった。ここで知り合ったタイや台湾の学生とは、帰国後も交流が続いており、他の国の看護師や看護学生の状況について理解を深めるきっかけとなった。

3. 謝辞

この度は、国際研究集会発表助成に採択いただきありがとうございました。ご支援のおかげで、日本国内にはわからなかった世界的な潮流を知ることができ、大きな刺激を受けました。博士課程のうちに国際学会を経験できたことで、国際学会での発表に挑戦するハードルが下がったと感じ、今後のキャリアのためにも、貴重な機会となりました。心から御礼申し上げます。